

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第5回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

(1) J-ホールディングスグループの整理について

(2) 日帰り・宿泊温浴施設の今後の方向性の検討について

・協議事項（公開）

(1) 自主的審議事項「大潟健康スポーツプラザ鶴の浜人魚館の利活用促進について」

・その他（公開）

3 開催日時

令和4年7月28日（木）午後6時30分から午後8時45分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：五十嵐郁代、五十嵐公子、金澤信夫、君波豊、佐藤忠治（会長）、新保輝松、土屋郁夫、中野幹根、濁川清夏、俵木一松、俵木晴之（副会長）、細井雅明

（14名中13名出席）

・施設経営管理室：青柳副室長、小関係長

・行政改革推進課：島田副課長、丸山主任

・事務局：大潟区総合事務所 熊木所長、柳澤次長（総務・地域振興グループ長兼務）、平野市民生活・福祉グループ長、布施教育・文化グループ長、風間班長、水澤主任（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【柳澤次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【佐藤忠治会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：五十嵐公子委員に依頼

【佐藤忠治会長】

それでは、3報告事項（1）Jーホールディングスグループの整理について、施設経営管理室から説明願う。

【小関係長】

資料No.1により説明。

【佐藤忠治会長】

意見、質問はあるか。

【細井雅明委員】

4社の統合の計画はいつが目途か。

【小関係長】

今は統合に向けた検討を進める段階である。今後9月、12月の議会で説明していきたいと思っており、今年度中には集約したいと考えている。

【細井雅明委員】

令和5年3月までか。

【小関係長】

令和5年3月までには集約したい。

【細井雅明委員】

Jーホールディングスが設立されたときに大潟地域活性化センターの当初の株をJーホールディングスが買い上げたとのことであるが、株主に説明したというのはJーホールディングスの株主に対してか。

【小関係長】

大潟地域活性化センターの株主であった方は、Jーホールディングスの設立によりJーホールディングスが発行する株式と交換させていただいた。説明は、Jーホールディングスの株主全員にさせていただいている。

【細井雅明委員】

買い上げたのではないのか。

【小関係長】

交換である。当時の比率によって交換した。

【君波豊委員】

Jーホールディングスが設立した当初に我々もここで説明を受けた。伊藤社長が改革案を示され非常に期待していた。こういう結果になり残念だ。私は、伊藤社長の後の経営の在り方に問題があったと感じている。伊藤社長は、自主管理活動を重んじて、それぞれの会社に対してボトムアップの運営をすることによって期待感を持たせてもらった。説明を聞いたが、4社を統合して1つにすることには問題があるのではないのか。人魚館、ゆったりの郷は日帰り温浴施設だが、マリンホテルハマナスは宿泊施設であり内容が違う。内容の違った会社と一緒にうまくいくのか。Jーホールディングスが解散に至ったのも、稼ぎ頭であるゆめ企画名立やキューピッドバレイが早々に抜けていったところもある。これまでの経過を見ると人魚館やゆったりの郷はどちらかというところ稼げる方の会社である。もうひとつは、そうなると大潟地域活性化センターがなくなってしまうのではないかと私は捉えたのだが、そこをもう少し詳しくお聞かせいただきたい。

【小関係長】

統合する会社が管理している施設のカテゴリーが違うので大丈夫なのかということだが、ご指摘のとおりであると思う。ただ、固定的に発生する経費のうち共通する部分がある。例えば支配人や社長の人件費を4社それぞれでもっていたが、頸北の3社は近いので統合を図るなど固定費の一部をなるべく効率化していきたい。サービスに関しては、君波委員のご指摘のとおり日帰り温浴と宿泊で違う部分があるが、一方で食事のレストランなど共通する部分もある。そのところは、いかにうまく連携を図れるかということとで模索している。今後、事業計画を立てる中でそういった連携がどれだけ取れていくかということところはしっかり協議、連携しながら進めていきたいと考えている。大潟地域

活性化センターが無くなるのではないかというご指摘だが、無くなるというよりもひとつの会社を集約される。解散をして新たな会社を作るわけではなく、1社1社のエッセンスを4社合計することになる。無くなるというより統合して1つになる合併のようなものをご理解いただきたい。そのため今働いている従業員はそのまま残る。

【佐藤忠治会長】

4社が1つになると大潟地域活性化センターの名前は消えて、新しい4社の名前のもと4つの施設の管理運営をするということか。

【小関係長】

そうである。株式会社大潟地域活性化センターの名前はなくなる。新しく会社名を付けてやっていくということである。

【佐藤忠治会長】

今のJ-ホールディングスの代表はどなたか。

【小関係長】

今は、田知花康彦氏である。民間の同業種の経験がある。

【佐藤忠治会長】

伊藤氏の次に早川氏が就任したが、何年務めていたのか。

【小関係長】

伊藤氏が4年、早川氏が4年務められ、田知花氏が2年目に入っている。

【君波豊委員】

統合することによって固定費は合理化できると思う。おそらく人員交流も行うと思う。J-ホールディングスの時も人員の有効的な交流によってお互いの活性化や仕入れ等をJ-ホールディングスが行うことで経費削減となり合理化ができ、それによって参加する7社の収益性を上げるという説明を受けた。今回は4社であるので、トップに立つ人の目も行き届くし注意力、観察力も効くと思うので効果のあることも言えると思う。先ほどマリンホテルハマナスの名前を出したのはマリンホテルハマナスの社長がJ-ホールディングスの社長であるため、マリンホテルハマナスだけに力を入れられると困ると思ひ話しをさせていただいた。マリンホテルハマナスの社長が4社統合の社長に就任されるのではないかと想像するが、我々としては4社平等に目を光らせていただき、お互いに切磋琢磨しながら収益を上げるようお願いしたい。J-ホールディングスには大

いに期待していたが、このような結果になり残念だ。

【佐藤忠治会長】

ほかに意見・質問等がなければJーホールディングスグループの整理についてを終了する。次に報告事項（2）日帰り・宿泊温泉施設の今後の方向性の検討について、行政改革推進課から説明願う。

【島田副課長】

資料No.2により説明。

【佐藤忠治会長】

意見、質問はあるか。

【土屋郁夫委員】

今後の民間需要調査について、「民間活力を活用し、利用促進を図るとともに、地域外の人を訪れ、地域に利益を生み出すような施設への転換に向けたアイデアを募るもの。」とあるが、具体的な部分をどこまで地域協議会に示していただけるのか。鵜の浜人魚館の利活用促進についてこれまでずっと協議してきている。場合によっては、住民にアンケート調査を実施しようと考えている。来館者向けのアンケートは実施しているが、幅広く区内外の方に向けたものについては委員の皆さんに示せていない。調査をする時に、どういう項目でどういった内容を調査するのか分ければ協議会の中で同じようなことをしなくて済むと感じた。内容をどの程度まで地域協議会に示していただけるか。

【島田副課長】

募集要領を作成中であるが基本的には、令和元年度に実施したサウンディング市場調査と同様の内容での調査を考えており、その際の項目は、お示しできる。基本的な事項としては、集客のアイデアやイベントの提案である利用促進策、売上向上や経費削減案である収支改善策を提案のほか、用途変更、民間事業譲渡など幅広く民間事業者から提案いただきたいと考えている。

【土屋郁夫委員】

令和元年度の調査時には、何社くらい提案があったのか。

【島田副課長】

2社から提案をいただいた。その当時、新型コロナウイルスの影響により前に進むことができなかった。

【土屋郁夫委員】

その時に提案があった資料は我々に示していただける内容か。非公開か。

【島田副課長】

詳細については企業の独自のノウハウがあるため公開できないが、概要部分についてはお示しできる。

【土屋郁夫委員】

概要でいいのでお示しいただければ我々の協議の役に立つと思う。

【島田副課長】

対応させていただく。

【君波豊委員】

令和元年7月、10月にサウンディング調査を実施されたが、あまり積極的な業者はいなかったという感想を持っている。そこから3年たって施設の老朽化も進み、経済環境、社会環境がこのような状態の中で調査した時に、積極的に話に乗ってくる業者がいるのかという気がする。だが、実施していただき鵜の浜人魚館が我々の希望するような形で維持存続できれば有難いと思う。温浴施設は特殊であり、他の施設に比べると修繕費用が掛かると思う。ただ、その辺は定期的に丁寧に整備していけば施設を長く持たせることができると思う。資料では平成25年頃から修繕費がかなり掛かっているようだが、平成17年から25年の間に整備を怠ったのではないかと感じた。もう1点、確かに人口減少によって税収は減るが、一方で高齢者が増えてくると各区としてはこういった福祉施設はどうしても欲しい施設だと思う。中心市街地には民間の類似施設があるが、周辺地域には町村当時に作った施設しかないため維持存続していただきたい気持ち強い。そのために我々も協議している。資料を見るとコロナの影響はあるが、頑張っているのはゆっつりの郷と鵜の浜人魚館である。そこは大いに評価していただかないといけない。あと5年ほどで耐用年数がくるようだが、少なくともその間は丁寧な補修、修繕費を投入していただき存続させていただきたいと思っているのでよろしくお願したい。

【島田副課長】

このタイミングでサウンディング調査をするというのは確かに厳しい状況であると思う。だが、民間業者の中にはアフターコロナを見据えて、今投資をしていく時期だと考えている業界もあると聞いている。結果としてどうなるかはまだ分からないが、そうい

ったところに希望を持ちながら進めたい。修繕については委員のおっしゃるとおり、しっかりと計画的にやっていかなければいけないと考えている。財政的な面もありすべてを修繕できていない部分もあるが、優先順位を付けながら必要な所をしっかりと対応できるようにしていきたい。施設の存続の関係だが、温浴施設は旧町村の時代にシンボリックな思い入れのある施設として設置されたということは承知している。市としても一方的に廃止するというのではなく、地域の皆さんと一緒に考えながら方向性を検討していきたいと思う。今回、その方向性を検討する材料として調査をさせていただきたいと考えているのでご理解いただきたい。

【佐藤忠治会長】

ほかに意見・質問等がなければ報告事項を終了する。

～施設経営管理室、行政改革推進課退席～

次に、協議事項（１）自主的審議事項「大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の利活用促進について」協議を行う。前回の地域協議会において、町内会長の意見を聞くこととなり6月21日（火）に町内会長協議会役員と意見交換会を行った。また、今回の地域協議会前に内容を整理するため、7月12日（火）に検討会を開催した。ここでは、地域協議会で検討しているファンクラブと人魚館応援隊との違いを委員全員が把握しておく必要があるとのことで、正副会長及び事務局で人魚館へ訪問し現在の応援隊について確認をすることとなった。報告については事務局から2件併せて願います。

【風間班長】

資料No.3、4により説明。

【佐藤忠治会長】

補足する。人魚館に訪問した時に、小中学生が駐車場に壁画を描くという話の進捗状況を確認した。入り口に近いところを中学生、団地に近いところを小学生が描くことで話が進んでいる。中学生は10月末頃までに完成させたいということだ。今は何を描くか検討中である。また、入り口にある公園だが、そこも人魚館の管轄であり職員2人で草刈りをしている。もし、ファンクラブができたならお手伝いしていただきたいとのことだ。入口近くの駐車場は、海水浴客が駐車して施設前のシャワーを使い人魚館を利用せずに帰ってしまうとのことだ。老人福祉センター脇の駐車場は、人魚館の駐車場が満車の時に利用できるが、職員も少なく誘導対応ができていない。その部分もファンクラブ

に手伝っていただきたいようだ。人魚館でも、クラウドファンディングなどを利用したPRを検討や応援隊を改善するための商工会等と話し合いの場を設けているようだ。続いて土屋委員からアンケート用紙の説明をしてもらう。

【土屋郁夫委員】

アンケートについて説明。

【君波豊委員】

一般来館者向けと人魚館利用者向けがあるが、人魚館利用者向けはイベント等で人魚館を利用する人ということか。

【土屋郁夫委員】

そうである。

【君波豊委員】

資料No.4の鵜の浜人魚館応援隊の概要の中の現状で「社内でも応援隊の見直しを検討中」とあるが、いつ見直しする予定か聞きたい。また、会則の会員の部分で「本会は鵜の浜人魚館を管理運営する(株)大潟地域活性化センターとその隊員をもって組織する。」と書かれている。大潟地域活性化センターとその職員と解釈としたが、隊員というのは一般から応募した人たちのことだと思うので書き方を変えたほうが分かりやすい。

【細井雅明委員】

今はアンケートについて協議するのか。応援隊やファンクラブについて協議するのか。

【佐藤忠治会長】

時間がないため、どちらでもいいので意見があれば出していただきたい。

【細井雅明委員】

前回欠席したので把握できていないところがあり申しわけないが、アンケートを実施するのであれば、それについてやり方等を議論しなくていいのか。ファンクラブのことであればそれについて議論すればよいが、ごちゃごちゃしてわからない。アンケートはやり方等を決めないといつまでたっても実施できない。アンケートを実施することの決定してはいないと思う。

【佐藤忠治会長】

アンケート調査を実施することは決まった。決まっていてアンケート案を土屋委員から作成してもらった。

【細井雅明委員】

アンケートのフォーマットができていても実施方法は決まっていない。早急に決める必要があるのではないか。ファンクラブについては先送りにしてアンケートについて決めたほうがいい。

【佐藤忠治会長】

アンケートは五十嵐公子委員の関係している教室の参加者には実施している。その他に一般向けのアンケートの内容がこれでいいか協議してどのように実施するかである。

【細井雅明委員】

実施方法が大事である。

【金澤信夫委員】

先ほど説明のあった応援隊というのは、今現在ある応援隊についてのことでよいか。

【佐藤忠治会長】

そうである。

【金澤信夫委員】

応援隊の会員数は現状どのくらいか。また、会員募集のための努力をしているのか。

【佐藤忠治会長】

今は会員制ではない。廃止も無くて再登録もない。

【金澤信夫委員】

平成25年の設立時のメンバーが、そのまま入れ替えもなくきているということか。

【佐藤忠治会長】

役員の変更もなく、会員であっても誰が役員なのかも分からないし、役員会も開催されていない。イベント開催時に人魚館と応援隊の名前を併記して案内している。

【俵木晴之副会長】

会員数については確認しなかった。入会は常時受け付けているとのことであった。

【佐藤忠治会長】

我々は、今の応援隊ではなく新たにファンクラブを作ったらどうかを協議している。まずは、アンケートについて先に決めたい。アンケート用紙の案について意見はないか。

【五十嵐公子委員】

23日に人魚館で企業主催のイベントがあった。土屋委員から企業向けのアンケート

用紙を作成していただき依頼した。本日、企業側からアンケートが提出され会長に渡したところである。大潟区外の方たちから意見をいただいた。内容はまた報告したい。

【細井雅明委員】

アンケート調査は利用者のみが対象か。大潟区全体の調査はしないのか。

【佐藤忠治会長】

そこまでは協議していない。

【君波豊委員】

アンケートの内容については問題ないと思うし、既に取り始めているので進めてもらっていいが、せめて総合事務所、商工会、郵便局に置かせてもらい回答いただければより多くの声を聞くことができる。全戸配布するには費用が掛かるが、10枚ほど置かせてもらう分には掛からない。そのくらいのことはやったらどうか。

【細井雅明委員】

それは利用者ではない。

【君波豊委員】

利用者ではないが、ここに住んでいれば1度くらい利用しているかもしれない。

【細井雅明委員】

これは利用者向けのアンケートである。

【土屋郁夫委員】

それをやるのであれば、住民向けのアンケートを作る必要がある。

【君波豊委員】

これは、この用紙のままでアンケートの依頼をしているのか。

【土屋郁夫委員】

これで回答していただいている。

【君波豊委員】

土屋委員作成資料となっているが、その部分は記載されていないのだろう。

【土屋郁夫委員】

そうである。

【君波豊委員】

そうであれば、総合事務所等に置いても差し支えないのではないか。

【土屋郁夫委員】

「来館」という言葉を入れてしまっている。それらの部分を直せば声を聞ける可能性はある。

【熊木所長】

総合事務所や郵便局に配置依頼をするという意見だが、アンケートの中身を読んでいただくと分かると思うが、「本日も来館する前に」などの言葉がある。そうすると「総合事務所や郵便局に来た」と解釈する。このアンケートは人魚館に来た人が回答するから意味がある内容であり、一般の方に問うような設問になっていない。

【佐藤忠治会長】

No.1 と No.3 の違いは何か。

【土屋郁夫委員】

No.1 は健康教室やイベントでの来館者向けで、No.3 は風呂、プールの利用者向けである。人魚館が実施しているアンケートと No.3 を目立つところに並べて置いてもらうと思う。

【俵木晴之副会長】

並べると分かりにくいのではないか。

【土屋郁夫委員】

そこをどうするかである。地域協議会用の場所を作ってもらえれば、「アンケートにご協力ください。」と表示をして人魚館から協力してもらえばいいと思う。

【佐藤忠治会長】

一般来客者向けのアンケートはこれでいいか。

【細井雅明委員】

人魚館側はアンケートの配置について了承しているのか。

【佐藤忠治会長】

これから訪問して依頼する。

【細井雅明委員】

期間はどのようにするのか。

【佐藤忠治会長】

これから協議する。

【君波豊委員】

資料No.1と資料No.3はほぼ同じ内容である。ただ、調査対象者が違う。

【土屋郁夫委員】

資料No.1はイベント実施者に持っていき、イベント参加者を対象に依頼する。

【君波豊委員】

資料No.3の一般来館者向けはどこかに配置して、資料No.1はイベント参加者に主催者が渡して記入いただくが、内容はほとんど同じということでもいいか。

【土屋郁夫委員】

そうである。来館の主目的が違う。イベント参加者はイベントに参加することが目的で、風呂等は利用するかもしれないし、しないかもしれない。

【佐藤忠治会長】

期間はどうか。

【五十嵐公子委員】

8月の1週目、2週目は人魚館で行われているすべての教室が休みとなる。8月下旬まで置いていただければ教室参加者から協力いただける。

【佐藤忠治会長】

では、8月末までとしたいがどうか。

(一同了承)

次にファンクラブについてだが、応援隊とは違う形の新たなファンクラブを設立してイベントの企画運営やSNSを利用した広報活動、施設周辺の環境整備などに協力しようということである。どのように呼びかけるかなども含めて意見はあるか。市長に意見書を提出する、地域を元気にするために必要な提案事業とする、人魚館に意見書を出すなどの方法があるが、私としては地域を元気にするために必要な提案事業として町内会長協議会、まちづくり大潟、スポーツクラブなど各種団体に話をして個人加盟のファンクラブを設立してはどうかと思う。環境整備に協力するために必要なもの、のぼり旗など施設のイメージアップに繋げるために必要なもの、ファンクラブ運営に必要なものなどの予算を要求したらいいのではないか。

【細井雅明委員】

人魚館のファンクラブではスケールが小さすぎる。市に提案するにはふさわしくない

と思う。鵜の浜温泉を含んだエリアのファンクラブを作って盛り上げるのであればいいと思う。人魚館のファンクラブレベルで地域を元気にするために必要な提案事業に該当するのか疑問だ。人魚館のファンクラブであれば人魚館に提案する程度でいい。

【佐藤忠治会長】

以前の協議では、人魚館だけでなく大潟全体の観光も含めたファンクラブがいいという意見が大勢であった。

【金澤信夫委員】

会長が一生懸命にファンクラブと言っているが、これまでの協議の中でファンクラブを作るということは決定していない。これまで人魚館を活性化するためにどうするかということで「町内会長協議会に話を聞こう。」「アンケート調査をしよう。」などとまだ模索している段階である。何ひとつ決定していない中でいきなり「ファンクラブを作りましょう。」というのは話がおかしくないか。

【佐藤忠治会長】

そういう案も見通して話をしないとならない。

【金澤信夫委員】

そろそろ今まで話し合ってきたことを決定する時期になっていないか。ファンクラブは活性化のための一つの案であって、それだけを取り上げることではない。全体を通してファンクラブを作るということに決定したのならいいが、何も決まっていない中でファンクラブだけ進んでいくとついていけない。

【細井雅明委員】

鵜の浜人魚館の利活用促進については、かなりの回数の協議をしているが先が見えない。先ほどの話では3月末で体制も変わるようであり、いつまでも人魚館についての協議をしていくわけにはいかない。私は、施設修繕を含めた市に対する要望と人魚館にこうなってほしいという要望の2つをまとめるのがいいと考える。

【佐藤忠治会長】

9月を目途に結論を出そうとしていたので、8月、9月に住民向けの人魚館の利活用についての意見交換会を実施したい。住民の意向を聞いて今後の方向性を決めたい。これは前々から実施するという方向性であった。

【君波豊委員】

利活用促進について進めているが、それに関わる既存の応援隊がある。人魚館を賑やかにするためには、その応援隊の組織をきちんとして除草等の協力をするというのもひとつのステップである。人魚館でも応援隊の見直しを検討中であり、そこで我々がファンクラブを結成すると言ってしまうとまた元に戻って、ファンクラブに名前を変えてどうしましょうかという話になってしまう。ファンクラブは次のステップでいいと思う。まずは、今ある応援隊の組織体制の見直しによる充実化へ話を進めてもらう。それも人魚館の活性化に繋がっていく。

【五十嵐郁代委員】

今までこうやって話し合いをしてきた中で、その都度合意形成が取れていかなかったことを残念に思う。9月末までにという話も出ているが、本当に9月末でいいのか。我々は人魚館の利用促進について話し合いをしてきた。それについて地域協議会で話し合われたものはきちんとまとめないといけないと思う。それをどこに出すかというところになってきて、J-ホールディングスの解散、整理という話が出て皆さんの気持ちも揺らいでいると思う。私は、ここにこだわることはないと思っている。例えば要望として市長に出すとか、中身によっては会長が言われたように人魚館とも話し合いをしてきたので、形にしたいものを地域を元気にするために必要な提案事業とするのも一つの方法だと思う。皆さんの話を聞いていると、9月末ということとこれまで話し合ってきたものが振り出しに戻っていることが気になった。そこの合意形成をしたほうがいい。

【佐藤忠治会長】

ともかくやれることは、9月末までにアンケート調査の実施と小中学生の壁画作成である。今の意見をもとに検討会を開き、皆さんの合意形成を図れるように進めたい。君波委員から意見のあった応援隊の充実を行い、その後のステップの段階で人魚館のファンクラブにするのか大湊全体のファンクラブとするのか次回の地域協議会で意見集約したい。土屋委員から他市、他地区の事例も紹介していただいている。そういったものも参考にし、人魚館にこだわらないファンクラブでもいいと思う。商工会も人魚館と話し合いをしている。私も商工会に出向いて、どのような状況か聞いてきたい。そういうまとめでよろしいか。

【俵木晴之委員】

いろいろな意見が出た。検討を始めてからかなり時間が経過している。最終的に利活用促進が主のテーマであるが、協議しているといろいろな枝葉が出てくるのは当然であるが、元の部分を決めていかなければいけない。利活用促進の最終的な部分を決めないといけない。それをメインに次回以降は協議いただきたい。

【君波豊委員】

俵木副会長の意見のとおり、利活用促進に向けて動いている訳である。そのためのアンケート調査は実施できる状態である。イベントも既に取り組んでいる方もいる。それぞれ一歩ずつ前に出てきているので、さらにそれをまとめる方向にしていき最終的にもう少しこういったことをやれば利活用促進に繋がるということを導き出していく。それが9月末より遅れてもいいのではないかと。予算的な措置が必要であれば市への意見書でもいいし、地域を元気にするために必要な提案事業でもいいのでまとめていく。地域を元気にするために必要な提案事業にするとさらに時間が掛かるが、それであれば11月末を目標とする。J-ホールディングスの話は別の位置付けでいい。利活用促進についてこれまで意見を出し合ってきた。それを大きな項目にまとめていくという作業が必要である。その方向で進めていただきたい。

【佐藤忠治会長】

それも含めて検討会で協議して、次回の地域協議会で協議できるように提案したい。よろしいか。

(一同了承)

5 その他に移る。地域自治推進プロジェクトについて、細井委員から提案があるので、説明してもらおう。

【細井雅明委員】

資料により説明。

【佐藤忠治会長】

細井委員から提案いただいたが、これについては次回協議する。

【君波豊委員】

予算化は8月末となっているが、今の説明では9月であった。

【細井雅明委員】

9月に予算計上するので8月末という考え方である。

【君波豊委員】

予算申請の時期は分からないが、もう少し早いのではないかと思う。

【佐藤忠治会長】

次回の協議会の日程案について事務局から説明願う。

【柳澤次長】

第6回地域協議会を8月25日木曜日午後6時30分から開催する。

【俵木晴之副会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-534-2111（内線 201、216）

E-mail：ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。